

松くい虫被害木点検にボランティアなど参集

～ 佐賀県森林病虫害等防除連絡協議会主催による虹の松原・鏡山松くい虫被害木点検 ～

5月11日、虹の松原及び鏡山(唐津市)において、佐賀県森林病虫害等防除連絡協議会主催による「松くい虫被害木の点検」が令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止されていましたが、4年振りに開催され佐賀県、唐津市、唐津南高校、NPO法人KANNE、ボランティア団体等、佐賀森林管理署から総勢49名が参加しました。佐賀森林管理署からは、猪島署長をはじめ5名が参加しました。

はじめに、虹の松原東の浜海浜公園(野外ステージ)に集合して開会式が行われ、同協議会の吉田会長から「虹の松原は予防散布と駆除対策の効果が発揮されている。近年の被害木の推移を見ると低水準に抑えられているが、被害木の枯死率は80%と高く、1本でも減らしたい。本日の点検で被害木を探すことでまん延防止に繋がる。」と挨拶がありました。

つづいて、唐津市の脇山副市長から「唐津市のシンボルである虹の松原は貴重な財産。この松原を保全するため多くのボランティアの支援をいただいている。この松原を後世に大切に引き継いで行きたい。」と挨拶がありました。

被害木点検に入る前に、吉田同協議会会長からクロマツが枯れるメカニズムや予防対策、松くい虫被害木を放置すると被害が拡大するため駆除対策が重要であることの説明を受け、虹の松原内は5班編成、鏡山1班編成で目視によりクロマツの葉が赤く変色していないかを見て回り、変色した木を発見した際は白テープを木の幹に巻いて表示しました。点検の集計結果、641本の被害木(被圧木を含む)を確認しました。

当署では、今回の被害木点検によって現状が把握でき、今後の保全管理に取り組むうえで貴重なデータとなりました。



吉田会長:松くい虫のメカニズム説明



猪島 佐賀森林管理署長 挨拶



松枯れの様子



開会式の様子